



特別連載
メイポールに魅せられて

UCHICO LOR 代表
大志田 樹子
2012/7/10
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

第一回 「メイポールに魅せられて」

私は毎年岩手から送られてくるりんごの味に驚き、感動し、「岩手のりんごは日本一美味しいなあ」と思っていた岩手生まれで、青森・仙台育ち、現在東京在住の一主婦です。

それがこともあろうに、昨年授粉樹メイポールに魅せられてしまったのです。

まず、名前が素敵じやありませんか？五月柱、多分ヨーロッパのお祭りに由来する名前でしょう。有名なのはドイツのマイバウム春の訪れを祝うお祭りに広場に立てられる柱、メイポール。日本にも良く似たお祭りがありますね。諏訪の御柱です。

バレリーナツリーという品種だそうで、天高く伸びる樹形は、つま先立ちして踊るバレリーナのようにも見えます。一面のりんごの畑のすみっこで、空に向かってしなやかな腕を伸ばし、授粉樹としての役目だけで、つま先立ちして立ち続けるバレリーナ、メイポール。アンデルセンの「赤い靴」も連想させるような物語のある名前だと思います。

新芽も枝も赤く、花さえ、他のりんごの花とは違う濃いピンク色。そして秋、果肉まで赤い小さな小

さなりんごを実らせるのですね。

これを昨年初めて見せていただき、まさに異才のりんごだと思いました。私はすっかりメイポールの虜となっていました。

それには、少々訳がございいます。二〇一一年の東日本大震災です。二〇歳半ばまで育った故郷仙台に押し寄せる津波を茫然とテレビの前で見続けました。人の営みとはなんと儂い物だろうと思うほど、整然と整えられた田畑やビニールハウスも次々と蝕まれるように黒い波に飲み込まれていきました。

この震災で、私も家族、友人、知人が被災しました。その哀しみは現しようもありません。私は結婚前宮城県で小学校の教師をしておりました。その最初の教え子たちが閑上（ゆりあげ）小学校の子供たちでした。そして夫の義理の妹家族は陸前高田です。後には、仙台の親友の息子さんも津波で流されたこと、東京の同僚の山元町の実家も流されたこと、東松島町の先輩の実家も1階部分が流され、怖い夜を過ごしたことなどを知りました。

ふるさとを離れ、動こうにも動けず無力感と虚無感でしばらくは、何も手につきませんでした。しかし、私の家族もそうですが、被災地では、淡々とそれを受け入れ、パニックになることもなく日々を暮らしていました。



特別連載
メイポールに魅せられて

UCHICOLOR 代表
大志田 樹子
2012/7/20
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

第二回 「メイポールに魅せられて」

私がやっと仙台まで様子を見に帰れたのは三月二五日でした。水道もガスも止まったままでした。それから、閑上の教え子に会い、閑上の哀しい現実を聞かされました。東京仙台を行ったり来たりするガタガタの道路を走る高速バスの中で、いつもより長くさまざまな想いを感じ、さまざまな事を考える日々が続きました。

多くの支援の手はいち早く、東北へ向けられ、東京にも夏頃から復興の物産展などが開かれるようになり、感謝しました。仙台でも同級生たちは被災した沿岸部へ支援活動に駆け回っていましたし、故郷を離れた閑上の教え子達もかけつけていると聞きましました。私は東京で仕事をしているため、家族の様子を見に帰るのが精いっぱい、何もできないこともどかしく、離れていてもできることはないだろうかと考えました。

半年考えぬいて、たどりついたのが、岩手のメイポールを使ったりんごジュース「りんごの森」を作ることだったのです。

たとえば悪いかもかもしれませんが、がれきの中から

かけがえのない思い出を集めるように、私は、受粉樹でしかないメイポールの中に、復興につながる宝物を見つけたように感じたのです。

これで今までにないジュースを作って、東北の元気を今度はこちらから恩返しで、日本中に発信できないかと思ったのです。「東北も頑張ってますよ!」と。

それが、引き金となり、私は、数年前から構想を温めていたUCHICOLOR(うちから)という個人団体を、急遽立ち上げることにしたのです。

「東京の大志田です」と、りんごに関わる方々に電話をしまくる日々が続きました。最初は何者からの電話かと驚かれました(あたりまえですよ)が、お話しをしていくうちに、どの方々も、おしみなく、素人の私にいろいろなことを教えて下さり、励まして下さいました。希望が少しずつ繋がっていくようでした。

生産者の方々にも、大変お世話になりましたが、「大志田さん、これって採算とれんのかうい?、やめとけばいいのに・・・」とご心配をおかけしました。少ないロットでの製造を委託できた会社の方からも「販路はいつたいどうするんですか?ジュースは激戦区ですよ。」とご心配いただきました。

本当にその通り、実際に出来上がった山積み「りんごの森」を見た時は、正直くらぐらと、めまいがいたしました(笑)。

それでも、工場で搾りたての「りんごの森」を飲ませていただいた時の感動は忘れられません。休日

の始発で東京から盛岡へ向かいました。「八時から搾ります」

でもどうしてもその時間には間に合いそうにもありません。事情を知っている仙台の母や、友人達に、新幹線の中から落ち着かず「パワーを送ってちょうだい」とメールまでする始末。とにかく「無事りんごの森が生まれますよう」にと、森羅万象に祈ることしかできませんでした。そして工場に駆けつけ、やっと、殺菌も済み飲めるジュースが出来上がってきて、「はい、どうぞ」と飲ませていただいた時は本当に感動しました。

まず、あの毎年東京へ送られて来るりんごの箱を開けた時のような、いい香りがふわーとして、ほんのりピンク色で、酸味の効いた味。

「どうです?大志田さんが思ったジュースになってますか?」と実直な工場の部長さん「はい、ありがとうございます」こんな子が生まれてくれて・・・と、ただただ感謝いたしました。

早速できたてを盛岡の夫の実家の両親と試飲し、仙台の実家の両親と試飲し、東京の自宅でも試飲をしました。「うん、これ、美味しいな」となんと合格点をもらえました。

お世話になった生産者の方と相談役の方にも飲んでいただきました。「うん、これなば、うまいんでないかい?色も悪くねえな」嬉しかったです。



特別連載

メイポールに魅せられて

第三回 「メイポールに魅せられて」

UCHICO LOR 代表
大志田 樹子
2012/8/1
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

次の問題は、当然ですが、どうやって売るの？でした。

みなさんにご心配いただきながら、なぜか根拠もなく、「何とかなるかも・・・」と販路も全く考えず控ってしまっただけです。

「りんごの森」を引き取りに再び降り立ったJR盛岡駅で駅員さんをつかまえ、「プレデステーション岩手のポスターを東京で見たんですが・・・」と、営業部長さんに会わせていただき、「こんなジュースを作ったんです。」と、手作りパンフ片手にお話ししました。震災でプレデステーション岩手のパンフレットも遅れていました。

「そういうことだったら、直接JR盛岡支社の販売促進課に相談してごらんなさい」と親切に教えて下さり、販売促進課にご相談しました。そこでは「岩手県庁の食の復興支援サイト」ご存知ですか？そこが結構出展の募集をかけていますよ」とまた親切に教えていただき、今度は岩手県庁の流通課に早速ご相談です。運が良かったのだなあと思います。

一〇月末の東京でのイベントに、まさかの出展許可がおりたのです。知名度ゼロの「りんごの森」の

デビューは東京練馬の光が丘公園、「第二回ロハスフェスタ in 東京」と決まりました。これまた、ロハスとは・・・「りんごの森」にびったりかも・・・と、看板も段ボールを使い工作手作りで作りました。当時岩手県庁の流通課で

このイベント担当の方は、「大変美味しそうなりんごジュースですね、肩の力を抜いて自然体で行きましょう。りんごの森や活動の様子など、いらつしやうした時にたくさんお聞きしたいと思います。盛岡にお帰りの際は、ぜひご一報くださいませ。楽しみにしております。」とまでお便りいただきました。

この話が決まった時、私は、これを売った利益は必ず東北へ寄付しようと思えました。そして、実際、平成二十三年度のUCHICOLOR「りんごの森」の利益は、全てその都度計算し、十二月に岩手、一月に福島、二月に宮城（名取市）へと寄付して参りました。

ある友人が「あなたらしいやりかたね」って注文と手紙をくれました。

寄付の金額も決して大きな額ではありません。岩手と宮城にはお金を東京から振り込みで寄付いたしました。福島へは、一月の毎日新聞の希望新聞に「新品の靴下を仮設へ送ります」という福島のみくみくプロジェクトさんの記事を見て、すぐ男性用女性用の靴下を買いに飛び出しました。

お店で「こんなに靴下どうするの？」って聞かれ、事情を話したら「東京だってこんなに寒いんだもの、仮設の人はもっと寒いよね。」

そこで、どの靴下にしたものかと悩んでいると、

「見た目はこれ暖ったかそうだけど、じーちゃんとかばーちやんとかには履きにくい、見た目地味だけどこの国産の遠赤外線靴下の方が暖かくて履いたり脱いだりしやすいよ」と教えてくれました。



特別連載
メイポールに魅せられて

UCHICO LOR 代表
大志田 樹子
2012/8/10
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

第四回 「メイポールに魅せられて」

「それじゃ、一〇〇足、段ボールとかあるかな？」
「あるよ、二つになっちゃうけど、車どこ停めたの？
運んでやるよ」とお店のおばちゃんが一緒に運んでくれました。ここにも東北を想ってくれる人がいる。木枯らしの中、車飛ばして来た、下町のお店のおばちゃんの温かさに、じんと心が温まりました。蛇足ですが、福島は私の両親・祖父母の故郷、私のルートとも言える故郷です。平成二十三年度「りんごの森」のラベルデザインは、福島で被災し現在新潟に住まう女性の手によるものです。ここにも「ふるさと」は遠きにおいておもうもの」の想いが詰まっています。

新しい「りんごの森」を作って無事生まれてきてくれた時の至上の喜び。それを計三回の復興イベント会場（ロハスフェスタ in 東京、トヨタココロハコプロジェクト、ライフシテイ箕面駅前商店街主催「福幸」東北物産市）、及びチャリティーコンサート（キャプネットみやぎ主催「歌、詩、唄」）会場で直販いたしました。

お客様に飲んでいただき「これりんご？こんな美

味しいの初めて」「りんごの香りもすごいね！」「このすっぱさ癖になるわ」と笑顔をみせる方々。一気に一瓶飲み干し「あうまい！」と言って一日に三回も買いに来て下さった男性。「この子スーパード売ってるりんごジュースは嫌いで飲まないのに・・・このりんごの森は離さないわ」と乳母車の赤ちゃんを驚かせているお母様。イベント会場ブースの傍らに設置した掲示板に足を止め、東北へのエールを書き込んで下さったお客様方。「りんごの森」で笑顔になる方々に出会えることが嬉しくて、ここまでくる苦労も忘れてしまいました。

「みきちちゃんがやるんじやう、手伝うよ」と、岩手県庁から出展させていただいた東京での二回の復興イベント（十月の第二回ロハスフェスタ in 東京、十二月のトヨタ主催ココロハコプロジェクト）に手弁当で駆けつけてくれた東京の友人たちと家族。みな、それぞれに、ふるさと遠きにおいておもうもの達です。



特別連載

マイボールに魅せられて

UCHICO LOR 代表
大志田 樹子
2012/9/1
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

第五回 「マイボールに魅せられて」

また、知らせを聞いて、会場に駆けつけ「りんごの森」を買ってくれた友人たち、当初私の手作りパンフレットだったのを見かねてきちんとしたパンフを作ってくれた同級生、UCHICOLORのホームページを立ち上げる手伝いにかけてくれた東京の同僚、多くの支えがあったから、UCHICOLORは何とか少しずつプロジェクトとして形をなしてやることができました。

そのおかげで「りんごの森」は、十二月には、おはがき、FAX、ネットからのご注文にも対応できるようにになり、私は東京での仕事の傍ら、せつせと夜な夜な内職仕事のように、瓶の首にぶらさげるフリップを作ってみたり、慣れない梱包作業配送作業で、毎晩のように郵便局の夜間窓口へ運び、お客様にりんごの森をお送りできました。美味しくって、復興に繋がるのならと、「りんごの森」の評判は、直販以降、少しずつ人から人へ伝わりました。ありがたかったです。巣立つ子どもたちを見送るように、「一緒に幸せ運ぶんだよ」「美味しいと言ってもらえるといいね」と、声かけながら。やはり私にとって、親ばかなのか婆ばかなのか、愛おしい「りんご

の森」たちなのです。

私は支援という言葉があまり好きではありません。年代的になのかボランティアという言葉もあまりしっくりこない変わり者です。ただ、東北の人は我慢強いし、感謝するし、温かい。だけど、もつと内側に、誇れるものをたくさん秘めているはずと、常々私は思っただけです。

UCHICOLORは、元々は、*made in japan*にこだわったクオリティーの高い *hand made* の再発見、新製品の開発を目指すために、立ち上げ準備していた個人団体です。ところが、震災後は、新たにふるさと遠きにおいて、東北に勇氣とエールを送り続けたいという活動とメッセージが加わりました。それが「りんごの森」です。

今回、東北のりんごに関わる多くの方々のお知恵をお借りしました。マイボールを研究された方々のお知恵もお借りしました。マイボールについてわからないことばかり、というか・・・その他のりんごについても、ましてやそれで飲み物をつくることにも、全く無知な私でした。

でも、こうして本当に「りんごの森」ができあがり、北は北海道から南は沖縄までお送りし、少ないロットではありましたが、無事完売することができましたのも、東北の温かい家族や人たちがいたからです。そして、日本各地に、このUCHICOLORの活動に共感して下さった方々がいらっしやっただけです。

私はこの大震災をただの悲劇だとは思いたくありません。哀しみは果てしもなく忘れられません、

今あちこちで灯される灯は、その哀しみを包み込むように、人と人をつなげているではありませんか？私も信じてやみません、その灯の輪が少しずつ広がっていくことを。

UCHICOLORも「りんごの森」で一つ小さな灯をとすことができたなら、それで本望です。

今年の秋もマイボールを使って、「りんごの森」を作ります。利益を寄付する活動も継続いたします。

まずは、今年も無事、この希少なりんごマイボールがちゃんと集まりますように、そして、昨年以上に美味しい「りんごの森」ができますようにと、研究に取り組み、切磋琢磨。そして森羅万象に手を合わせ、いよいよ始動開始です。



UCHICO LOR 代表
大志田 樹子
2012/9/10
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

第六回 「マイポールに魅せられて」

ある果樹研究所の方が「大志田さん、りんご選んで良かったね、りんごは飽きないよ」と、いろいろなりんごを実際に見せて下さって、ご自身も嬉しそうに語って下さいました。

そして、ある方は「戦後、美空ひばりが歌う「りんごの唄」が復興を後押ししたように、りんごは復興によく似合うよ」って励まして下さいました。

思えば、りんごは古来ギリシャの時代から、人間の営みの逸話として大変なじみ深い果物のひとつです。

おこがましいですが、セザンヌは、「私は一つのりんごでパリを驚かせたいのです」と言ったそうです。私は、まだまだ修行中ですが、このセザンヌの気持ちがあほんの少しわかるような気がいたします。

新しい物を生み出す、挑戦することは、まさに冒険です。私もこの一年はジェットコースターのような冒険の旅の連続でした。自然を相手に、いきものを相手に、一喜一憂の日々。それでも懲りずに、また今年も一歩一歩冒険を始める旅支度をせつせとしております。それもこれも、マイポールには他にない

稀有な可能性を感じるからかもしれません。このメイポールに出会った時、私は、直観的に、これは復興のシンボルとなり得ると感じました。

東北といえば、りんご。その畑にまるで灯台のように、まっすぐ空だけをめざし枝を伸ばす異才のりんごメイポール。春の花は、白い花のりんご畑のなかで力強く灯りをともしているようにも見えるではありませんか。

みなさん、メイポールを植えてみませんか？ ちよつと気難しいりんごですが、もともと園芸種ですから、玄関に鉢植えでも美しいですよ。観光果樹園の周りに生垣替わりに植えるなんていかがでしょう？ 実は、これは岩手県の農業センターの方からの受け売りです。でも、きつと、春美しい花をさかせるでしょうね。枝を横に伸ばさない空に向かって真っすぐ伸びるメイポールは、他の果樹の枝の邪魔にもなりませんし。そして、秋には枝枝にかわいいりんごの実をつけます。

こうなったら、「メイポールの里」なんか作って、日本版メイポール祭りでも企画してしまおうかしらんとまた、むくむくと素人妄想アイデアが浮かんでしまいます。

さて、さて、妄想はほどほどに、あくまでも誠実なものづくりをし続け、末永く皆さんから愛される UCHICOLOR 「りんごの森」であり続けるよう、これからも研鑽を積んで努力して参ります。



特別連載
メイポールに魅せられて

UCHICO LOR 代表
大志田 樹子
2012/9/10
岩手県果樹協会
りんごタイムス掲載

第七回 「メイポールに魅せられて」

私はメイポールに魅せられて、昨年、手さぐりで「りんごの森」を作り、岩手のメイポールには、可能性も魅力もまだまだあると思っております。

実際、信州では、メイポールを使ったソースやお菓子など少しずつ作られております。UCHICO LORでは、今後もできるだけ、無添加（砂糖や水などを使わず）に近いものを研究し開発していきたいと思っております。また、みなさんのお知恵をお借りしながら、ゆっくりとですが・・・岩手のメイポールとしてアピールできるような、身体にも心にも優しい製品づくりをめざしたいと思っております。生産者の方々のご理解あつてのUCHICOLOR「りんごの森」です。ご協力いただけることをお待ちしております。

りんごに関して人からお聞きしたのですが、「量の青森、早さの信州」と言われているそうですね。岩手がりんごでアピールできるとしたら、「品種の豊かさ」と品質（クオリティー）の「高さ」だと私は思います。各地方によって特色があつてよいではありませんか？岩手は誠実に品質を高めていき、他にはない

「りんごの品種&品質王国の岩手」と言われたいなあと私は思います。

今の都会の人？（日本人？）は、大量生産のチープなものにも走りますが、その反面、何処にもない隠れや的なのも強く求めていると感じます。岩手はそういう意味では、日本の隠れや的存在かもしれませんね。

「知る人ぞ知る」。持前の誠実さと優しさを失わず、研究と開発を粘り強く続け、ふるさと岩手が少しでも潤う小さな灯となれば、UCHICOLORは大変嬉しく思います。

最後に宮沢賢治の言葉を。「われらの前途は輝きながら険峻である」

JR盛岡駅営業統括部、JR盛岡支社販売促進課、岩手県庁流通課、果樹研究所（つくば）、果樹研究所りんご研究拠点（厨川）、岩手県工業技術センター、宮城県農業・園芸総合研究所、岩手県農業研究センター、岩手県青果販売農協（丸モ農協）、川原商會、他多くの方々に心より感謝申し上げます。

そしてこのUCHICOLORの活動をりんごタイムスに記載することを承諾して下さった岩手県果樹協会に心から御礼申し上げます。

UCHICOLOR代表 大志田樹子